

## 仕事は楽しく

少年がいたずらをした罰として壁のペンキ塗りを命じられました。暑いし、汚れるし、遊びにも行けない…。嫌々ながらやっていると、そこへ友だちが通りかかったので、「おい、手伝ってくれよう！」と頼みましたが、断られてしまいました。

そこで少年は、歌を歌い、小躍りして嬉しくてたまらないという感じで塗ってみることにしました。するとその様子を見た友だちが、「ちょっと俺にも塗らせてくれ」といつてきました。ところが少年は「悪いけど、代われないね！」と言ってペンキを塗り続けました。

もったいぶると友だちはますます壁を塗りたいがりました。別の友だちも集まってきて「ペンキを塗らせてほしい」と言い出してきました。少年は簡単には友だちにペンキ塗りをさせなかったため、友だちはペンキ塗りをさせてもらうお礼にビー玉やリンゴを少年にあげてペンキ塗りをさせてもらいます。

結局少年は壁のペンキ塗りを見事一日で塗り終えてしまいました。

『ご機嫌なペンキ塗り』原話：マーク・トウェイン著「トム・ソーヤの冒険」より

この『ご機嫌なペンキ塗り』は、何事も辛そうにやるより、楽しそうにした方が周囲の協力を得やすいことや、振る舞い一つで人を動かし、協力して仕事ができることの例えとして伝えられています。

仕事というのは、どうせやらないといけないのに嫌そうな顔をする人がいますよね。皆さんの日直の仕事はどうか？先生から頼まれた仕事はどうか？嫌そうにやっていますか？仕事は喜んで笑顔でやるのが一番です。笑顔でやると仕事の結果が変わります。自分の意思で行動が変わり、行動が変われば結果も変わるものです。できそうにないことでも、気持ちの持ちよう一つでできそうに感じますし、一人では無理だと感じたら、ではどうやって協力を得るかを考えていかなければなりません。

仕事には自分に合わない、できないと感じるような仕事や、やりたくない仕事も当然あります。でもそこから逃げたり、嫌々やっても成長は望まませんし、いい結果は生まれません。

卒業生の皆さんの中には卒業して就職する人もたくさんいますし、進学する人もいずれは就職します。一・二年生の皆さんもいずれ将来は仕事を通して社会貢献する時がやってきます。

『仕事は楽しく』 こうでありたいと私は思っています。

